

(様式 3-1)

平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 5 月 10 日

代表者 松永修一

研究課題名	地域文化・地域言語を用いた対話による Civic Pride と地域づくりプロジェクト創出に関する研究
研究期間	平成 29 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	
1. 今年度の研究概要	
<p>3.11 以降、東北大学でまとめられた『方言を救う、方言で救うー被災地からの提言ー』で言語の危機的状態、地域の危機的状態に対して社会科学・人文学の分野の研究で何ができるのかという大きな問いが立てられた。この命題に対して、本研究は地方創生というスローガンによって、右肩上がりの経済的な成長を目指す地域活性化とは一線を画して、地域文化・地域言語を核とした Civic Pride 醸成のためのプラットフォーム作りを、この地域をより良い場所にするために自分自身がコミットしているという当事者意識を大切に進めていく人々のために試みた。地域言語・ことばを中心に据えたプロジェクトを地域活性化という文脈でどのように活かすことができるかを実験する場でもある。社会的課題解決のためのプロジェクトとして社会実験も行いながら研究するという新たな研究分野として提案でもある。</p> <p>地域ブランディングのための、方言グッズや地方の方言を用いた CM やキャッチフレーズといった素材を、言語学という枠組みで分析しフィードバックすることで新たなイノベーションを生み出すワークショップをデザインし、実施。リフレクションしながら、効果的なワークショップの運営、ファシリテーション、問いの立て方の研究を重ねた。</p>	
2. 研究の成果	
<p>ワークショップを中心とした対話型の新たなフィールドワークの手法開発を目指し、ワークショップデザインの研究会 WORKSHOP DESIGN ACADEMIA で学びながら実践を積むことの繰り返しを行なった。まちづくりや地域再生のコミュニティー作りに必要な Civic Pride の醸成の過程を、地域が求めているサポートモデルを提案するという社会実験でもあった。</p> <p>ワークショップデザインは教育の現場でも「次世代の学校、チーム学校」を実現するためには学校運営に関する地域連携が大切になる。地域の多様な主体とつながるための仕組みとしてワークショップによる対話の手法は重要なスキルになっていく。つながるための大切な手法としても本研究の成果は活かせるだろう。</p> <p>まちづくりのワークショップは、小川町、宮崎市、三股町、都城市、高原町で実施し、多くの方々と一緒に学んだ。ワークショップを通じたコミュニティー作り、学校教育の中で Civic Pride を育てるための教材づくりの研究を進めることができた。</p> <p>更に、新座市では防災ワークショップを企画運営することで、様々なステークホルダーと繋がりを持つことにも成功し、地域包括ケアや教育、食といった領域のワークショップにもコーディネーターとして参画し、学生の参加も促進できるようになった。</p>	

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

- 8 月 6 日 都城市教育委員会主催、講演会「都城の歴史と方言」都城市祝吉地区センター
- 9 月 24 日 南日本新聞朝刊「鹿児島県方言週間ー若者世代の伝統方言ー」
- 10 月 13 日 講演会「方言で地域の魅力を再発見」宮崎県三股町まち・ひと・しごと情報交流センター
- 11 月 8 日 宮崎日日新聞朝刊「都城の方言文化」
- 12 月 9 日 宮崎県高原町、「祓川神楽、サステイナブルな集落づくり」霧島東神社社殿
- 3 月 17 日 講演会「方言をシチズンプライドに」宮崎県地域づくり協議会